

「現地を訪問して想うこと」

奈良県校友会の市川強志です。

この度、運良く東北応援ツアーの福島県会津コースに参加させていただきました。

ツアー中全行程で、福島県校友会の皆さんはじめ地元の方々の心温まるおもてなしを受け、あらためて御礼申し上げます。

また一方で、被害の大きかった「浜通り」から遠く離れた地域にも今なお残る仮設住宅には、我が家に帰れない多くの皆さんがおられるという現実など、大震災の深い爪痕にも直接ふれることができ、これまで傍観者にすぎなかった私の意識も大きく変わりました。

会津活・活自然村でいただいた野菜たちはあんなに美味しかったのに、勉強会で福島県校友会の方から紹介されました、「今でも、福島県内においてさえ、県内産の食材を給食に使うと、保護者からクレームが寄せられる。」というお話には、風評被害の悲惨さに胸を打たれる思いでした。

東日本大震災後の原発事故に伴う風評被害に苦しむ地元経済を救おうと、必死に頑張っておられる「福の島プロジェクト」や「福島屋商店」の取組みに対し、私も及ばずながら力になればと思い、商品を購入します。

私が本格的に福島県を訪れたのは、今回が初めてでしたが、福島県は、自然にも、温泉にも、そして数々の美味しいものにも恵まれている、本当に「うつくしま・ふくしま」の言葉どおりでした。

全国の校友の皆さん、機会があれば、というより、是非とも機会を作って、一度(と言わず、二度三度)訪問してみてください。

また、今回の東北応援ツアーに参加された皆さんにもお願いがあります。

もし、平素は校友会活動に参加しておられないのであれば、校友会活動は色々な形がありますので、是非とも何らかの形で参加してみてください。きっと新たな楽しみが見つかりますよ。

私自身、来年もこのツアーが存続していれば、必ず参加しようと思います。

最後に、素晴らしい T シャツを提供して下さった松井大輔選手に、心から感謝の意を表します。